

246

特 245

907

日新新聞社々長
聯盟總指令局長

箕浦春浪 著

再び起ち 全大衆に呼びかへ



* 0003710000 *

2

0003710-000

特 245-907

再び起ち全大衆に呼びかへ

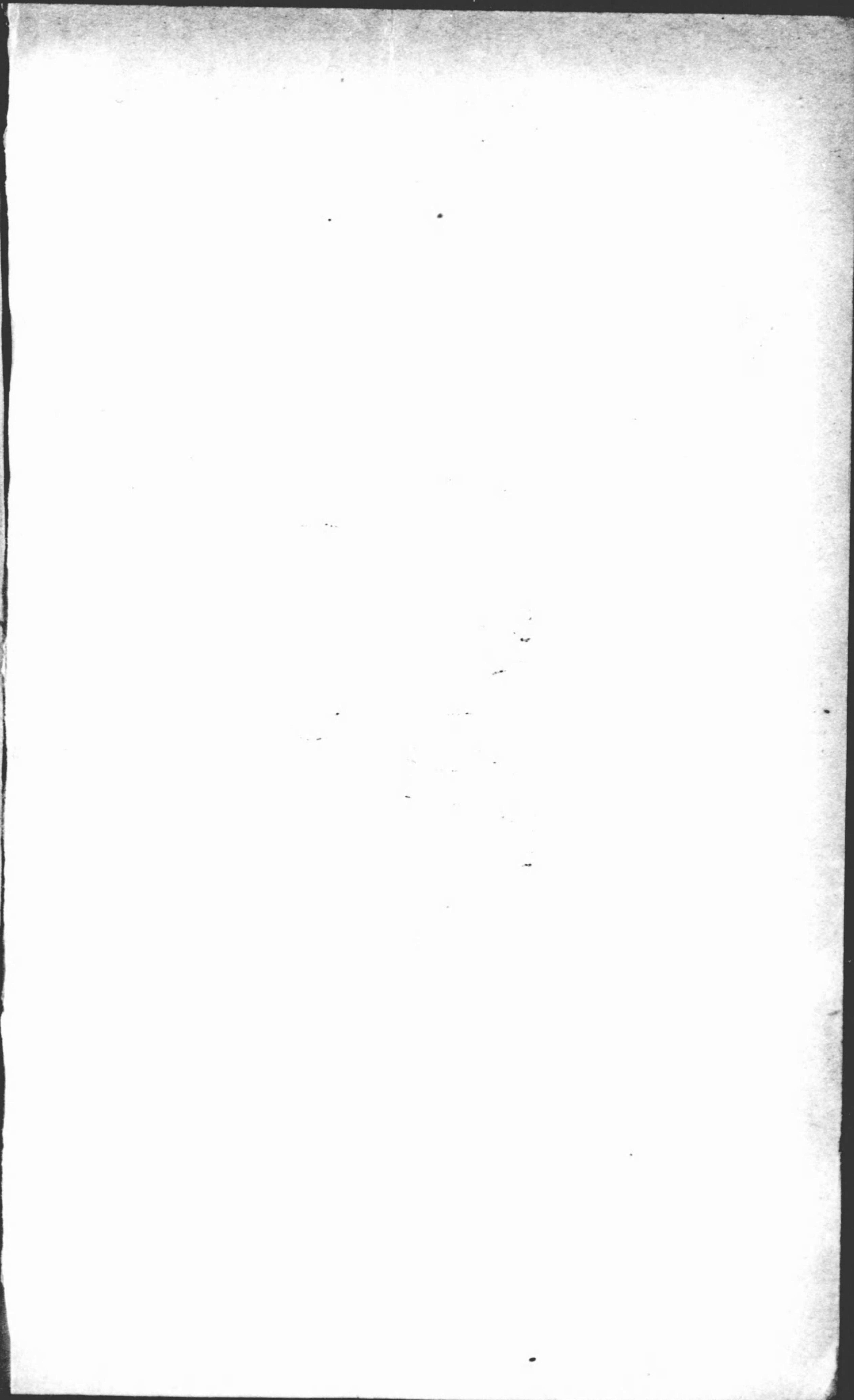
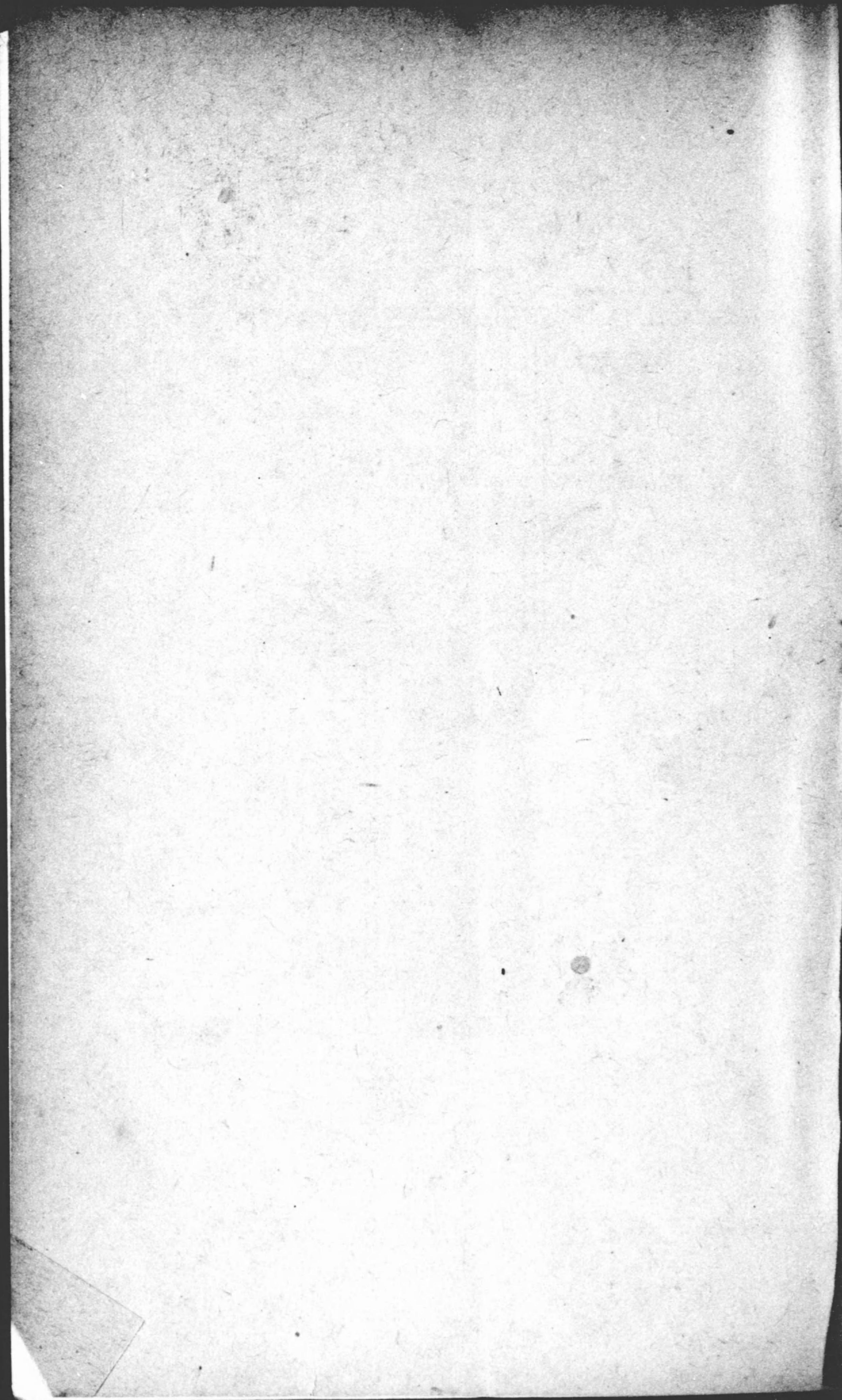
箕浦春浪・著

大衆国威聯盟總指令局出版部

第 4 版
昭和 7

ABA

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第 67 条の規定に基づき、平成 12 年 3 月 2
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもの



特245
907



著 浪 春 浦 箕

再
起
方

全
大
衆
に
呼
び
か
く



版 盟 聯 威 國 衆 大



再び我等の眞髓を訴ふ

x x x

願れば昭和二歳に生辰し、一部大衆の支援の下に我國內の一角に孤軍奮闘を續けて來た我大衆國威聯盟は常に全國同志と我が機關誌「大衆國威」によつて命脈を繋いで來た、然し近時感ずる處勢なからざる爲め再び起ち本聯盟は近く十大政策を發表せる前提に五綱領を「十大綱領」に延長概説して廣く天下に訴ふるに當り右原文の儘轉載した、切に御寛恕を、抑も未だ名もなき我等の集團の要素とは一体、赤か、白か、何れ思想を多量に包含されて居りて、現在の社會狀勢に鑑み、有害無益？順次本書の頁を捲つて鬼が出るか蛇が出るか、正確なる解讀を煩して、本書の眞髓を掴みたい、今哉世界の思想界はマルキシズム、ファシズム、赤旗、國旗の兩旗乱れ飛び、多くの民衆は何れを支援し最後の勝敗は何れにあるかと、實に興味深き近狀と鋭い眼を左右縱横に光らせてゐる。

x x x

殊に我國に於ても日支事變勃發によつて、左右兩翼とも強烈なる動搖を招いた、見よ外は平和に魅みがへらんか、内に見逃す勿れ、國際關係の尖鋭化、斯る國家危急存亡の此秋に依然として國民の膏血を吸る、既成ブルジョア政黨の積弊せる暴政ぶり、不斷我等の精神王國を覆がへさん前衛に貧勞階級を好餌にせんとする社會主義無産政黨の怖るべき革命的豫行演習ぶり、將又、白晝拳銃亂れ飛ぶ變力的國粹主義政黨

の横行ぶり、之等を敷ふれば枚舉に遠がない狂亂の巷、かゝるが故に如何に口に對外硬化の聲を大にする
と雖も、逆行的に對内軟弱の過程を踏み、内傷から癩癩へと事實の上に祖國日本の内部的崩壞の途にお
らんか、この隠然たる混亂の隙をねらひ好機逸す勿れと不斷潜行的隱謀を企て我日本帝國の牙城に迫り、
巧みに背後より侵略的牙をたて鵜呑せんと怖るべき魔手が伸びつゝあることは決して忘るゝ勿れ。

X X X

若し今後共長夜の夢想に耽け飽迄も亡國的醜聞を續けてゐると、光輝ある祖國日本の手足は剝奪され、更
に一步誤れば三千年間愛護して來た、我日の丸の旗幟は踏み躪じられるぞ、一刻も油斷は大敵だ、憂國の
國民大衆よ祖國と胃袋の清算は終結したか、最早血で血を洗ふ血戦を鎮め、最初の日本民族の統一的精神
に甦りて、我同胞よ擧つて腕を堅く組み合せて内部的疾患を施術し、亡國的政争を消し飛ばし進軍喇叭勇
しく本聯盟旗を先頭に押し立て、同一血族關係を保つ強力なる我日本民族の大結成を期して、對内同胞
の結成を固め、而して完全に對外硬化の徹底を期せんと再び大衆に呼びかけたのだ、今は唯々微弱なる
本聯盟今後の社會的浮沈は絶大なる全國民大衆の歴倒的支援のロープを投下されんことを待望するのみ。

昭和七年初夏

大衆國威聯盟總指令局に於て

箕浦春浪

全大衆に呼びかく目次

- ◆大衆の歩むべき道 大日本生産黨 内田良平……………(五)
- ◆不戦の國防を説く 大日本國光宣揚會 會長 陸軍中將 權藤傳次……………(八)
- ◆濁世を何如にして救ふか 大日本國粹會總本部 會長 中安信三郎……………(二)

- (1) 君民一体同祖の科學的論據に基き天皇中心主義を奉じて細胞的に結成す……………(二)
- (2) 昏迷せる我九千萬同胞よ、共產主義か、資本主義か、何れを選ぶか……………(八)
- (3) 國法の欠陥を改正して君民の安泰確立が現下の急務……………(二)

◆◆ 箕浦春浪著「再び起ち」

- (4) 政黨政治に蹂躪さるゝ經濟政策を排撃し君民の經濟政策を確立し國利民福を計れ……(二四)
- (5) 汚濁したる社會情勢が遂に青年學生を左翼思想に導いたか……(二七)
- (6) 左右兩翼の長短を検討し國政の慢性的疾患に手術を施し搾取ブルジョア階級に反省を促す……(二九)
- (7) 國內に潜流せる唯一の癌、水平社同人、朝鮮人等に對す階級意識の積弊を氷解し強力なる對内硬化の徹底を期せ……(三一)
- (8) 勞資マルキシズムの理論的効果の失望から最近歐米に於て生産の分配より心の協調に移る……(三六)
- (9) 日本帝國の興亡は我日本民族の大結成にあるのみ……(三九)
- (10) 強力なる全大衆の壓力を浴せ亡國的政争を排撃し祖國日本を防衛する本聯盟旗を押し立てよ……(四一)

大衆の歩むべき道



大日本生産黨
總裁

内田良平

明治天皇踐詐し給ふや畏くも新政の初めに於て五ヶ條の御誓文を發し給ふたのである。即ち、

- 一、廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決スベシ。
- 一、上下心ヲ一ニシテ盛ンニ經論ヲ行フベシ。
- 一、官武一途庶民ニ至ルマテ各其ノ志ヲ遂ゲ人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス。
- 一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ皇道ニ基クベシ。
- 一、知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ。

是こそ實に千古不滅の國是であつて、その後欽定憲法を制定して議會を開放し、國体の精華たる君民一致の政を行ふに至つたのはこゝに準據してゐるのである。

然る處國會開放の當初にあたり政府當局に於ける内治派の巨頭前後相次いで逝き、民間に於ても有力

なる反對派が消滅するに至つて専ら歐米の文物制度を輸入して盛んに歐米人の歡心を迎へ條約改正の目的を達せんことを期し、苟くも歐米の學を修得したものは悉く之を發揚して、忽ち顯要の地位に就かした。茲に於て曲學阿世の徒は争つて歐米の學問に走り皮肉な物質文明に心酔し、爲に天下の人心は靡然として外尊内卑の弊風を生じ、その結果三千年來涵養し來つた國體國風と相容れぬ法律制度を作るに至り、憲法發布せられ國會開設せられるに及んで歐化主義の傾向は愈甚しく歐米民主政治の憲法を根據として國體の精華たる欽定憲法を論議するものすらあるに至つたのは、等しく識者の痛嘆する所であつた。

さて又政黨内閣であるが之れは所謂濼閥の人物年と共に凋落した自然の結果であつて政黨者流の實力に因つたものでない爲、之を濼閥内閣に比する時はその實質に於て多分の遜色あるを免れないのみならず、その黨争の激化は勢選舉の買収となり、國民又選舉權の貴重なることを知らず愈々賣買の弊害を生じその結果は選舉に巨額の費用を要し、代議政治は全く金權政治と化し、政黨の幹部たり又内閣の大臣たらんとするものは悉く金力に縋る外ない有様となり政商富豪の徒と結托して收賄の弊風を馴致し國家の利權を擧げて彼等の貪慾に供せしめ神聖至公なるべき政治をして今日の如き腐敗偏私の極に墮落せしむるに至つたのである。

然して歴代の政府者は自己の政權を維持するに吸々とするのみにして遠大なる經綸を有せざりし爲皇國の興廢を堵して克ち得たる滿蒙の權益に對してさへその施設する處は僅に滿鐵及び之に附屬する二三の事業にすぎず、幾多懸案の解決は天與の好機を逸して排日の禍を招き遂に今次の滿洲事變の如き結果を見るに至つたのである。

今日の急務として先づこのブローカー政治、ブローカー思想を徹底的に撲滅し、我日本の國是たる大日本主義に立脚して庶政の根本的改革を計り、以て國家の隆昌と堅實なる國利民福の基礎を確立することであらねばならない。斯る時に際して我が「箕浦春浪氏」が所謂新らしき時代の國粹主義を標榜して大衆國威聯盟を起し、去就に迷へる大衆に呼びかけ、之を指導誘掖して以て國礎の確立を計り、國家の擴大強化に猛進しつゝあることは余の双手を擧げて迎へる所であり、常に斯る團體の躍動せることは余の大いに意を強ふる所である。

不戦の國防を説く



大日本國光宣揚會々長
陸軍中將

權藤傳次

「箕浦春浪君」が大衆國威聯盟創立以來、既に余と箕浦君とが相知つてからは可成りの年月を経た。箕浦君の主張する皇室中心主義と余の主義とする日蓮中心の國光宣揚會の主張とは、その辿る道こそ多少の差異があるが、その究極する所は、即ち國家本位である所から互ひに接近して來た次第である。

さて大衆國威聯盟と國光宣揚會とは、文字に於て國光と國威との違ひがあるが如く、その意義に於て多少の相違があるが、更に之を仔細に詮索すると、何れも日本主義なり、國家主義を主張して、之を全國のみならず世界萬國に迄押広めんとするに在るが故に余の主宰せる國光宣揚會の精神と同一方向を以て進んで行くものと考へ、大衆國威聯盟の主義主張に大いに共鳴した譯である。

大衆國威聯盟は只に日本主義の宣揚のみに止らず、政治、經濟、國防、教育といふやうに凡ゆる社會

萬般のことにわたつて多岐多様に及んでゐる。従つてこの主義主張の貫徹の爲めには凡ゆる障害を突破しなければならぬ。箕浦君が主義の爲に猛進猪突、然かもそれが單に自己本位でなく、本當の日本主義の下に立つて之に盡しつゝあることは國家の前途の爲め、衷心慶賀の念にたえない次第である。元來國家の威嚴を保ち列強に伍して遜色なき爲には、國防といふことが最も肝要である。即ち内にあつては國民の協力一致、外に向つては外交上、國家の威力、權威を示すことが必要なのである。國防と云ふことは一日、一時も之を等閑に附することは出來ないものである。

處が大衆國威聯盟の主張する所謂「不戦の國防」と云ふのは誠に面白いことであると思ふこの主張は理想的國防であつて、即ち自ら求めて他國に對し戦ひを挑むといふことがない。何れの國家でも、國防が完全に出來てゐれば外敵の侮りを受け、又戦ひを挑まれると云ふことは斷じてない。たとへ他國から挑戰的態度に出で戦ひを宣せられても少しも恐るゝことはなく、却つて相手方が不利に陥られるものである。

この例は今度の滿洲事變が最も明かに之を示してゐるのである。但し日本は徒らに武力を振かざすものでない。日本の主張はいつ如何なる場合に於ても正義に根據づけられたものである。こゝに日本の主張の強味があり、こゝに日本の武力の正當性があるのだ。優勝劣敗は凡て腕力、武力で解決するが如

く考へられてゐるが、最後の勝利は結局正義に存するのである。

さらに大衆國威聯盟の重大な主張は即ち思想の清算であり、國論の統一である。今度の滿洲事變を契機として思想界は稍清算され、國論は稍統一されたやうであるが、現下の如き國家の難局に際しては國論の統一が、何より力強い國家の背景となり得るのである。

皇國、日本はロシアの如き共產主義國家とは全然反對なるものである。然るに拘らずロシアの事情を論を講ずべきであると共に之等の撒いたバチルス徹底的に驅除する爲に、堅實鮮明なる思想を以て對すべきである。即ち三千年來終始一貫して流れる大和魂であり、大日本主義である。日本國家をして永久に隆興せしめんとすれば、大日本主義、大和魂を再吟味し、之を眞に理解して普及普術せしむる外にないを信じてゐる。

濁世を如何にして救ふか



大日本國粹會總本部
會長

中 安 信 三 郎

余は皇祖皇宗の天皇を体し、建國の基胚を開き給へる國体の尊嚴に鑑み、同時に、我大和民族は上古に於て神胤に直系する皇胤四十四族に合流する一系民族であることを知つて誠に自重の念を禁じ得ないのである。然かも此系血は同胞八千萬民衆を生み連綿として現代に迄延長し、而して無窮永劫に續くべき運命である。

吾人、熟々思ふに近時物質文明が東漸して大和民族の基調を腐蝕し、思想を捨て、形ちに生きんとするの傾向を生じ上下滔々として時代思潮に迎合し玉石向架その採擇を誤り、その結果、國に節度なく、民心は向背に迷ひ、思想は混沌たる状を呈し、廉耻の敗類、名物の亂れ將に國を擧げて敗亡に歸せんとしてゐる有様である。

かくて人心の墮落は帝國議會を悪化し、政黨を紊亂して政局の光明を奪ひ、國民教育の施設は、その基本を捨て、徒に時代の奔流に委し、財政經濟の基調は公心を缺ける政黨者流の弄する所となつて年々窮迫を告げ、苛斂誅求猶ほ以て國庫を支へるに足らざる有様で窮巷飢餓に泣くの状態を示し斯くて國民は生色なく國には亡兆がきざしてゐる。然るに一方政黨者は政權の爭奪を事とし、議員多數の包容は黨人の節義を去勢して有權者に叩頭請托を事とするの氣風を造らしめ、議會墮落、議員の墮落、有權者の墮落を招致せる有様であつてもしそれ、政黨政派にして翻然反省する處なく徒に推移に任せておくならば是明治天皇の議會開設の教旨にもとるものといふべく、政黨政派も我等と共に興國の道程を談ずるを得ないものである。

嗚呼國勢の陵夷已に斯の如くである以上共產不逞の徒が其の間げきに乗ずるのも當然である。なほまた、多數雇傭者を收容する會社の如きにも、選舉權の擴張せられた結果、有權者が多くなり、之等有權者の向背は、政黨の興敗に關するものであるから、政黨の監視が斯界にも延長し、陰に陽に、其管理者を牽制して、聲色を伺ひ雇傭者を驕らしめ主義者の侵入を容易ならしむる結果を致してゐる。

余はつとに國運の萎靡民心の弛廢、尋常でないことを知つて紀綱を振肅し患憂を除かんとして、さきに大日本國粹會を組織して、天下大衆に呼びかけた處、四方同憂の土が簞食壺漿して之を迎へ、又在外

邦人の祖國を思ふ者が遠く呼應合流して、今や本支部設立の範圍は國の内外に涉り、會員の數實に百萬を突破するに至つた。然るに時代は時代の患憂を除く可く新なる組織を要求してゐる。之は何であるかといふに、即ち彼れ共產主義者が細胞組織によつて、國家社會組織を破壊せんと陰謀を抱くこゝが之である。此れに對して吾等も亦同一の組織を以て國家社會を擁護する必要に迫られてゐる。この秋に際して「箕浦春浪氏」の主宰せる「大衆國威聯盟」は全く吾人の志と主義を同じうせざるものとして、國家將來の爲に、斯る聯盟の出現を發展を待望して止まない次第である。(中安氏の寫眞は明治四十一年の撮影)

再び起ち全大衆に呼びかく 箕浦春浪

(1) 君民一體同祖の科學的論據に基づき

「天皇中心主義」を奉じて細胞的に結成す

X X X

世界の政治要素とは、君主政治は歐洲の第十八世紀までの政治であり、民主政治は現今の歐米の政治であり、共產主義政治とは現在の勞農ロシアの政治であり、民主主義政治とは過去に於ける支那の政治である。然るに之等を壓倒せんす我「君民一體同祖」の下に「天皇中心主義政治」あり、茲に本聯盟は右他國の四主義政治に修正を加へ、時代を錯覺せる國體論は却而大衆を欺瞞し國家の安泰を傷く虞れあるを看破して、飽く迄も我「天皇中心主義政治」を強張せんとするのである。

抑も皇室は國民の反映で、皇室を見れば國民の道德狀態が判明せる即ち皇室は國民の要求に従つて其態度が定めらるゝのである、嚴格なる國民には必ず整然たる皇室があり、放縱なる國民には必ず紛亂した

皇室がある。斯る意味からして皇室と國民は血族關係と、皇室の徳望の有無等の二つの點を考究し、皇室を第三種の分類と觀るのである。その第一種は國民と血族上大いにあるに不拘、徳望の欠けた爲め亡びたものが二つある。一つはフランスのブルボン王朝であり、他の一つはロシアのロマノフ王朝である。第二種は皇室の徳望盛であり、又國家に對する功績も大であつたに係らず、國民と血族上の親しみが無かつた爲めに亡びたる皇室が二つある。一つは佛のナポレオン皇朝で、他の一つはプロシアのホーエンツォルレルン王朝である。第三種は徳望も盛んであり、國民との血族關係等の兩種を完備せる萬世一系の光輝ある皇室とは、我日本帝國の皇室を除く外斷然なく、斯くの如くにして決して他國の追從を許さぬのである。

仰も我國の上古の政治は氏族政治であり、中古の政治は郡縣政治であり、近古の政治は封建政治であり、而して現代の政治は又郡縣政治である、爾來神武天皇御即位千三百年間を上古とするのである。そして神武天皇以後大化革新に至るまでの政治は、天皇中心とする氏族政治であつて、氏族とは即ち我々の祖先を同ふするのでありて當時氏族の長は其部落の長を治め、而して天皇は之等の氏族の總家であつて自ら之等の長を指導せられたのである。

X X X

又同じ君主國である英國の如きは、建國以來外國により征服されたこと實に四回でありて、最後の第十世紀に於てノルマン人が英國を征服した。其間強者は弱者を倒し凡ゆる民族が混成した國でありて常に君民共に不徳不義から君民が權利の爭奪に終始し、互ひに君民抗爭が英國憲法の成立過程を見ても明かに證左されてゐるのである。

斯の如く外國は征服國家多く、殊に在來の天皇は殆んど限りなき暴政を施し、人民に苛税を課して人民の膏血を搾り、人民も亦反抗して君主を放逐すべきといふにあつた、然るに我國に於ては右の如く君民は血族關係を保ち、それより生ずる微妙なる精神作用が基因をなして、歴代天皇は勿論、近くは明治大帝が如何に人民を愛撫し給ふたかは當時の大御心は御製の一端を拜察しても判る。「とがあらばわれを罪せよ天つ神、民はわが身の生みし子なれば」と畏くもこの仁慈の御聖徳を拜しても我々人民は自然に尊崇の念が高まる、斯くて之等君民同一精神の表顯が過去他國の如く一つの汚點を残さず、今日三千年の歴史を把握出來たといふ君民一体同祖の國家組織の形成をしからしむるに至つたのである。

x

x

x

かくの如く日本國民は科學的においても、天皇の皇胤でありて誠に世界無比の國家組織をなしてゐるのであつて、皇室を全國民の宗家として民族團結の基礎となすが故に日本に於ける天皇政治の眞意義に

は、國家主義の根本思想に基づき道德主義人情主義の政治を行ふことであらねばならぬ。果たして然らば國家主義、道德主義、人情主義とはそも如何？國家主義とは他なし、天皇の大御心を以て國民全體の總意となすの主義であり、道德主義とは、天皇の大御心と祖宗の神靈と、祖宗の子孫の心とが合體してゐることを指し、人情主義とは天皇の大御心を現在の全臣民と堅く心魂を結合するの謂ひではあるまいか。然りとせば道德主義は時間的に、天皇の大御心を臣民に擴充推及し、人情主義は空間的に、天皇の大御心を臣民に擴充推及するを意味するものであつて、この二義の窮極するところ、とりもなほさず、國家主義をなすの所以であると稱するも不可なしと云ふ可きだらう。

かるが故に天皇政治の眞意義は窮局すれば即ち「君民一體主義」であり天皇政治は君主主義に非ず、民主主義に非ず、實に「君民一體主義」を謂ふのである。かくて君民は同一の生命であり天皇と臣民との感情は常に一致融合して、天皇は我等臣民を赤子の如く愛し給ひ、臣民は天皇を父母の如く敬慕することによつて萬國無比なる我等の母國が成立した所以である。かるが故に「本聯盟」は敢然たつて右優越せる君民一體同祖の下に「天皇中心主義」を奉じ飽く迄も君民の爲に、祖國の爲めに、強力なる全大衆の支援に基づき細胞的に同志の心魂を結成しその社會的第一歩を進出した所以である。

(2) 昏迷せる我九千萬同胞よ

共產主義か、資本主義か何れを選ぶか

x x x

世界に散在する六十の獨立國と十八億の民衆常に動く。今は之等の多數の人、舉つて階級制の打破や貧富の醜い闘争が續く、然し近世は歴倒的に押寄す金力と權力將に勢ひ鋭く我等の精魂まで蹂躪らんと迫り、遂に靈肉の争ひが露骨に我々の眼前に展開されて來た抑も我等人間萬物の本體は物質にあるか精神にあるか？愈々清算の時が來た。

右問題が端を發し今哉全世界人心注視の的となつて、今だにこの謎が解けぬ。顧みれば一九三〇年の二月米國メツカ寺院に於て「共產主義か社會主義か資本主義か」の大論戰が名大學教授間で華々しく交はされたのであり、遡つて一九二三年の三月と七月の二回に亘り之等と同様の論戰が英國下院に於て労働黨と保守黨とが火蓋を切り當時世界の視聽を集めた。斯く世界の趨勢と我國體の本質を對照し近時我國の民衆は勿論延いては全世界の民衆は何れの主義を望み、選ばんとせるかは極めて重要な分岐點ではなからうかと密かに考察するのである。斯く民衆が昏迷せる此機に臨み、奮然と我等は起ち、全國に

散在する愛國の同志と糾合し「合法的急進社會改良主義」の旗の下に我全民衆に呼びかけた次第である

茲に於て先づ共產主義及び社會主義、資本主義の要素を説く必要がある。

「共產主義」の本質は私有財産制と個人的特權に反對すると共に權利の平等を主張する主義である、社會主義も勿論平等を主張するものではあるが、主として産業上の労働報酬に於ける平等を強張するものであつて、共產主義の如く人間としての絶對的の平等を主張するものではなく、又生産資本の公有を要求するが、必ずしも一切の私有財産を禁ずるが如き事を主張するものではない。

「資本主義」は現下の法律や、經濟組織下に於て、幾多の資本を投じ、而して生産に必要な諸設備及び従業員を役使して物品を生産してこれを隨意に販賣し、その賣上金より従業員に對する賃金及び諸經費を控除した殘額を勝手に所得するのが資本主義である。

x x x

以上の如く共產、社會、資本の三主義は皆各種各様に異つてゐる殊に共產主義の如きは近年に至りて初めて發生したる思想であり主義であるかと云へば決してさうではない。既に日本原始時代に於いて共產的社會形體を以て生計を營んだ時代があつたのである。然し乍らこれは吾々人類の國家生活に採生し得ざる法式であつた爲に、自然消滅して終つたのであつて、云はゞ吾々人類社會の生活様式として不適當

なるものとして最早や試験相済みのものである。

然るに世のマルクスボイは口を開けば最早や資本主義經濟の末期だ、資本生産の行詰りだ、斯くして第三期に入ると崩壊するより外はないのだと冷笑を浴せかけてゐるが、各國の資本主義經濟もこの第三期に到達したか、次に我國に於ては最早末期に入つたか、即ち資本主義生産には恐慌が免れぬと云ふが、社會主義生産に於て果してよく需給の投合と不足を漏れなく圖り得るか、又社會主義經濟に於て假に財力の分配は宜敷を得ても財の生産が今日「資本主義經濟」の如く多種多方面に亘つて發達し得るだけの要素を包含してゐるか等の疑問の數々が次から次へと擧げられるのだ。

最近世界を風靡せるドイツ國粹社會黨首領アドルフ、ヒットラーは「黄金時代に對する悲惨なる場面がなければ」と叫んだ。

本聯盟は在來の幾多散在せる國家主義者の如く、徒に極左翼に對して絶對的の排撃はせない、又搾取資本主義に對しても斷然贅意を表し得ないのであり、眞の超愛國的觀念から立脚し、更に「明治天皇の御教示たる取善捨惡の精神に則り」兩所を検討して國法に觸るゝ要素を除去又は排撃して搾取亡國資本家を膺懲し、「理論と現實」を綜合し左右、勞資の主義に反省修正を加へ、而して階級意識を正解し、我日本民衆の存在を有意義に徹底せしむるべきだ。

(3) 國法の欠陥を改正して

君民の安泰確立が現下の急務

× × ×

歐米諸國は法治國であり、是を以て歐米人は誇りとなし、文明國といふ、抑も法律の効用は強制力を有しその淵源は主權である、主權とは君主又は人民、國家全体から異つて居るが、要は主權の作用によつて法律が行はれるのである。法律はこれに服従することによりてその作用をなすものであるから單なる命令服従の關係にすぎぬ、これ故如何に惡法であつても制定せらるれば是に服従しなければならぬ、斯様な單なる命令服従關係のみによつて、君民や國家が圓滿や安泰を保持出来るものではなく人には靈魂あり、それより生ずる道徳や感情があつて、物質の力はこれを機械的に動かすことが出来るが、人は單なる権力のみにかされ得るは實に不可能とすべきだ、徒に國權を以つて拘束してもその眞底に服従しなければ實際に國家が治まるものではない、假りに命令や強制せなくとも自發的の志士が頼山陽の著書に感激し、或は高山彦九郎の行爲に發奮し、頼まれざるに活動し、命ぜられざるに勇躍して遂に王政復古を完成せしめた、次に猶太の十二使徒がイエスの言行に感激し、ギリシヤ羅馬に布教し遂に全歐

米の人心を支配するに至つたのも其効果は單なる命令や法律に數千倍、數萬倍するのである、それ故に法律の適法は一國家を統治する一方法であつて、その總てではない、

英國憲法の成立過程を大略すれば即ち「英國の憲法は君臣抗争」のために生じその大憲章の生じた處は遠く第十三世紀の往昔である。

X X X

爾來君民抗争、即ち國土と議會との衝突の絶ゆる暇なく、更に西紀千六百二十六年の權利請願となり西紀千六百七十八年の人身法護律となり、續いて。西紀千六百八十九年に於ける權利法典となり、是等のものを集めたものが即ち英國憲法となつた譯である。これ故に英國の憲法は君民抗争の結果一人民が君主を強要して、調印せしめ鮮血を流し君權剝奪したその表徴である、故に國家を統治するには最大なる効果あるものは永久不變である、偉大なる人格と崇高なる言行であつて換言すれば道徳的表現である夫故に國家を治むるには法律も必要だが同時に道徳も必要とする爲政者の道徳的行爲と、指導者の道徳的教化とを必要とする、如何に合理にして善良なる法律を作成しても爲政者に於て不道不徳行爲あれば人心を征服するに足らぬ、如何に法律を公布し、嚴罰をもつてこれを統制しても教化によつて人を導かざれば人は禽獸に近づき遂に治むべからざるに至る、故に國家を治むるの大道はまづ爲政者の行爲を正

視し、次に國民を教化し道徳を普くし、而して後法律をもつて國民の行爲を規整するにあらざれば國を治むることは出来ぬ

我國に於ても明治維新が樹立された當時御誓文の第一條に「廣く會議を起し萬機公論に決すべし」とあるに基いて明治元年四月二十一日に公布された王政維新の政体書によれば大政官の權力を分ちて立法、行政司法の三權とす即ち偏重の患無からしむるにありと明記されてゐる、當時、王政復古に開國維新の新舊思想が衝突し「政府黨が主權在君」を唱へ「民間黨は主權在民」を主張し「帝權と民權」とが合一し始めて「國家權」を生じ君主獨り代表し私有し得ず國約憲法は君民同治の神髓なりと叫び當時國家統一といふことは抑も官民共通の時代的要求であつた。故に我日本では「君民同治」の關係により、「國權の欠陥を改正」して國家と君民の安泰を把握せしめた次第である。故に今尙殘存せる國法の欠陥を合法的に改正して而して國家の安泰と君民の幸福を獲得して光輝ある君民同祖の眞意義を徹底せしめねばならぬ

(4)

政黨政治に蹂躪さる經濟政策を排撃し

君民の經濟政策を確立し國利民福を計れ

× × ×

古の幕末に於て日本主義者として最も有名なるは佐藤信淵氏がある。彼の復古法概言、垂統秘録、經濟要録等を通讀すれば達論實に驚くべきものがある。抑も彼が水野越前守の囑によつて立案したる日本改造案の如きは、昨今の左翼陣營を崩壊した國家社會主義の如く極めて進歩的思想であつた。

要するに當時に於て既に現在唱へられてゐるやうな進歩的社會組織改造案は發芽してゐたのであつた。即ち佐藤氏の立案なるものを見ると横暴を極むる富豪の獨占を抑壓する爲に一切の商業を國家管理に移し、更に平衡を保つために政府の手によつてこれを公定すべきを説き、また國營の學校、病院、育兒院娛樂所等を開設して四民に開放し、同時に國家の産業を盛んならしむる方法を進言してゐる。

斯して徒らに消費に傾いて生産力を減退しつゝあつた當時の弊害を矯正しやうとしたのが佐藤氏の日本改造案の骨子である。

爾來春風秋雨幾星霜を重ねて現今は、政、民の既成政黨が轉々と政權を把握し、欲しいままに我國經

濟政策を行つてゐる。彼等は口を開けば産業立國だ、農村振興だ、失業者救濟だ、國民の負擔軽減だ、將又朝野景氣恢復に「金」の解禁の是非だこ叫び、正貨の流出と貨幣價值の慘落を招き、裏に悪資本家と野合を結び、弗の賣買に賣國奴的行爲をなし、黨利黨略と、自己防衛に私腹を肥し、それが爲め國家經濟衰亡に導き産業を窮地に陥れ、失業者街頭に、國民思想は悪化に、斯くて彼等既成政黨の爲め我國經濟は蹂躪され、將又破壊の段階を踏まんこするのである。最早我々國民の生活權を奪はんとする怖るべき危険極る既成政黨の獨占的暴政は看過出來ず、延いてはこの積弊は臆て我皇室に累を及ぼさんとするのである。故に本聯盟は茲に之等の弊害を除去せんと結果の良否は別となし、畏くも「我天皇の大權の發動を尊守せる我國家經濟統制を」行はんことを切望するのである。

× × ×

抑も經濟組織に於て恐慌が起るのは、組織の根本に内部的欠陥があるもので、今日の經濟組織は個人の自由なる營利活動を原則として成立してゐるから、生産者は儲かりさうだと思へば市場の實需を無視して思惑的生產をするので、其錯誤によりて恐慌が襲來するわけだ、だが一方天災戰爭、不作等の外部的恐慌の原因は除き、自然科學的計劃生産によれば、右「思惑的生產及び其錯誤」の欠陥を除去出來るわけだ。抑も我帝國憲法第三條に「天皇は神聖にして侵すべからず」との條文があるが、この不可侵の

條文は我國民が天皇に對する古來の信仰事實を法文化したものであり、將に君民父子の關係にある以上如何なる結果を招くとも國民舉つて異存はなきは理の當然である。本聯盟が「君民一體主義」を強張する所以は茲にあるのであつて、同時に本聯盟の政治、經濟方面に對する所信は、彼等既成政黨のそれ等とは全然趣を異にし、國家主義的勞働組合の團結權及び罷業權、團體協議權の確立、失業者並に傷害老廢勞働者、農民生活の國家保證等、總て國家を主体としたる國民安定策を確立せんが爲に、日夜間斷なく東奔西走、口に筆に聲を大にして國民に呼びかけてゐるのである。

(5) 汚濁した社會情勢が

遂に青年學生を左翼思想に導びいたか

× × ×

現代青年學生の左傾思想の由來を詮索すると、種々原因があるのであるが先づ第一に社會情勢の然らしむるものなることは、萬人がみとむるに難くない處である。

即ち資本家と勞働者との生活の甚しい懸隔及び農村の著しい疲弊、勞働問題及び小作問題の激化、中産階級の經濟的顛落、卒業後に於ける就職の不安、物質偏重的傾向、多數結束して目的を達成せんとする傾向、政界及政黨の腐敗とそれに對する不満、共產主義及びその運動の真相に關する認識不足等々見逃がしにすべからざる事實である。

就中現代我國の思想界、學界の風潮に誘導せらるゝものに至つては實におびたゞしいこと云わねばなるまいプロレタリア文藝並にマルキシズム理論の流行、新聞、雜誌記事の左傾的論調、外國思想の模倣、自然科學の見地の偏重、國体に關する理論的研究の缺如、わが國固有文化の研究の不振、マルキシズムの批判的研究の不振等之れであるが別して、いはゆるプロレタリア文藝及び「マルキシズム理論」の流行は自ら感激し易い「青年をして偏頗なる見地と同情心とに導き冷靜なる思想を失はしむることが多い。尙又現在の學校教育が創造力、批判力の涵養不十分で人生觀、社會觀に對する自覺、信念を養成する

方面殆んどなく特にわが國の深遠なる國体に對する明確なる觀念を養成するに缺くる處あるは、此後特に當局者の留意を要する事項と思ふ。

マルキシズムの性質を検討するとき、理論体系に整備の觀あること、現代社會の缺陷を批判せること社會改造の目標を示せること新興の學說と考へられをること、觀念的に非ずして實踐的なること等その特質とも稱すべく合理を要求する青年學生の心理に迎合する故、その學說の新奇なるに迷ひ且實踐的なるに惹かれて遂にこれを信奉する者も随分多いのである。尙また、學生、生徒をして左傾運動に加入せしむる直接原因は學内及び學外における左傾運動の誘惑であつて、學外にあつては、黨同盟及び外廓團體またはプロレタリア文化団体等、學内にあつては、それ等の學内班並に讀書會自治學生會等の巧妙なる組織と執拗なる宣傳煽動である。友人先輩等に左傾分子ある時はその誘惑が最も強い。またマルキシズム理論、プロレタリア文藝等に關する文獻の過激な言辭は青年を驅つて實際運動に赴かしむること少くない。また學内から發行される出版物、及び學内に開催さるゝ辯論會、討論會等の左傾的傾向に刺戟されて、或はまた學内における盟休、紛擾事件等の左傾的事件に動かされて左傾運動に加はるものもある最後に左傾せる青年學生の中には中産階級の子弟で順境に育ち、且素質も悪からず、身体も強健なるものが少くない。然し乍ら少數の者については、家庭の貧困、不和等の如き特殊の環境及び強情、執拗等の性質、身体の不健全が誘因となつて左傾する場合もある。

(6) 左右兩翼の長短を検討し

國政の慢性的疾患に手術を施し

搾取ブルジョア階級に反省を促す

×

×

×

爾來歴史を創造するものはすべて全大衆の絶對的壓力であつて大衆の壓力なくして歴史的大事業を斷行するは至難とすべきだ、殊に戰鬪的新興勢力の當面の重大任務は合法的攻勢的手段により私有財産制度に時間的制限を加へ、富の偏在と資本の死藏とを防止し、貧乏問題と失業問題を根本的に解決せんとするが爲に、當然一資本主義の忠僕たるブルジョア既成政黨を打破するだけの絶體勢力を得るかどうかといふことに至る譯だ、本聯盟が之れ等の可能性を主張する理由は我國社會の各層が即ちマルキシズムかファシズムかといふことになつて居るが今哉世界の學界を席卷したマルクスは一八八三年三月十日ロンドンデーリン街の陰鬱なるアパートの一室の安樂椅子に腰を下し「資本主義的私有の臨終の鐘は鳴り、つゝあり」と叫び、其放浪と追放と屈辱と反抗の生涯を閉ぢた、マルクス程の先覺者が右資本主義的私有の臨終の鐘は鳴りつゝありと豫言したに拘らず其没後五十年の今日に至るも尙資本主義は滅亡せず、

世界は未だに社會主義を肯定しようとせない、一方、最近急速にファシズムの聲が至る所に喧傳され、壓倒的に頑強なるマルキシズムの陣營を粉碎せんと押寄する現状だ、抑も大衆が自然的ファシズムに憧憬を持つに至つたのは何か、國民が今日の社會の情勢に強度に不安を感じ此不安を除去し得るものは新興勢力をもつキビくした強大なる實行力をもつファシストを國民は自然に其運動を期待し又は漸次支持するに傾いたので、そして現下の大衆はこの思想國難に當面して最早や資本主義の番卒にすぎない。ブルジョア政黨や社會主義無產政黨などに頼つて現下の政情を打開する事は全く不可能であるとは是等の矛盾をハッキリ意識し得て覺醒したのだ、だがファシストはテロ的蠻力を持ち暴力統一的の變則現象であるが然し社會の進化に連れ人間の智識も思想も必然的に推移しそして新環境をつくり、それに順應すべく思想智識も又變化して行き、幾多の新學說がその過程の途上のものであることはいつの時代でも同一で、そして「正しい主義思想が社會改造の原動力となつて歴史を創造し」然らざるものはいつか亡びて行く人類六千年の歴史は畢竟するに變化連鎖にすぎない事を證左してゐる。

X X X

そして現在の世界思想の焦點は既に大衆の眼に社會組織の疑惑を感得した、社會的機會均等に對する慾望の普遍化である、何人か共存共榮の現社會を人類最上の社會だと信じ得るだらうか、みづから有す

る機構上の内部的矛盾のため、死線をのたうち廻る第三資本主義の患部を料理せなければならぬ事が判然と認識出來得るのだ、だが本聯盟は現在の資本主義、國粹主義を強ちすべてを是認は許さないのだとして共產主義、社會主義に對し悉く否認や排撃するのではない、諸賢よ現在の社會情勢を靜觀せよ彼の既成政黨は多年に亘り我大衆を欺瞞し自己の不徳に覺醒せぬために政府に反省を求むる行動に出でるや直ちに抑壓を加へ、更に其中に尤も人目を惹き強烈なる彈壓を浴せらるゝのは極左翼系である、見よ、限りなき彈壓政治、官權橫暴の聲至る所で宣傳されて居るではないか、恰も今將に伸びんとする草木を踏み蹂られる如く踏み蹂られても芽のある草木は後から後から新芽を吹き、而して其都度鍛鍊されたる健全なる草木となつて現はれるのである、故に徒に發芽せる衆望を蹂つたり、大衆の自由なる行動を阻害したりして自ら反國家主義者を匿造し「政府自ら怖るべき國家に大罪を犯してゐる」わけであるから本聯盟は其結果的効果や最後の實收的を要望するがため積弊せる國政の慢性的疾患の根源に合法的に大手術を施し既成ブルジョア政黨や賣國的社會主義無產政黨に反省を求めテロ的蠻力行爲に出るファシストを排撃し、國家の恩惠を閑却せる搾取資本家を膺懲し多年の階級意識を正解し日本民族の大結成を強張するのである。

(7) 國內に潜流せる唯一の癌

水平社同人、朝鮮人等に對す積弊せる

階級意識を氷解し對内硬化の徹底を期せ

× × ×

人類社會の進化について我々は斯様な法則をみることが出来る天賦不滅の人格を高らかに宣言した自由、平等、友愛のスローガンは十八世期末に於けるフランス全大衆の心魂を躍進せしめ、ついに人類解放の戦旗を勇敢に街頭に押進めた、このフランス革命が民衆の勝利に歸した結果、封建主義はもろくも崩壊さるゝに至つたのだ、そして中世紀の神秘主義が民権の勃興に雲散霧消せしめらるゝと共に自由平等、友愛の輝かしいデモクラシーの曙光が始めて歐洲大陸の一角に輝いた。我國に於ても横暴の限りを盡した徳川幕府の武家專制に對する國民の反感漸次に高まり、遂に時代の壓力で徳川三百年の封建制度は倒壊さるゝに至つたのだ、茲に我國内に依然として潜流せる水平社同人と朝鮮人等の強大なる二つの癌を氷解せなければ何時迄たつても眞に君民の安泰や、我々國民の幸福は克ち得られない、殊に昨今國際關係が尖鋭化する秋對外硬化の聲至る所に喧傳さるる際之れが完結の段階に現在根強く階級意識が潜

在せる以上、いつまでたつても實際民族の結成は不可能である爲め、必然的對内外の硬化は至難である茲に有力なる参考を示したいのだ、彼の史實が物を言ふ「亡國インド、ユダヤ等との兩民族が不斷如何に再建を急いでゐるか」を概述し、續いて史上に現る朝鮮人並水平社同人等の重要な關係があるかに言及しやう。印度は今を去る貳百年前英國に奪取された。當時英國の有名なる歴史家ヂッケンス氏は「英國は武力によつて印度を占領せるものにあらず、詐術を以つて奪取した」と語つた、斯くて印度三億の民衆は祖國を失つた、其後最近一九三〇年ラホール全印度國民會議年次總會が開かれた、其席上に於て印度青年の父聖雄ガンジーが「諸君全印度の結合を表象する國旗が一度び掲揚された以上全印度國民が悉く斃れる迄斷じて引下げることとは出来ぬ」と絶叫を浴せた。

× × ×

次にユダヤは紀元一三五年即ち今より一千八百〇一年前、ローマの爲め故國イエルサレムを追放され今哉之等千五百萬のユダヤ民衆は資力と智力で世界至るところに細網を張つてゐる、斯くの如く印度もユダヤも不斷潜行的に再建を急いでゐるといふは明かである、故に「何れの民族も祖國觀念は共通性であるをハッキリ了得出来得るであらう、然るに不拘我日本國內に於て同一國民でありながら、表に平等を叫び其裏を横溢に流る差別的言動、今尙惠れざるものに朝鮮人と水平社同人がある。抑も朝鮮民族は

史上に四千年を飾り、其後二千年たつて朝鮮民族が成立した、古代の貌人、韓人が和合して三國人となり一轉して新羅人となり、再轉して高麗人となつたのである。其後史上に幾多の動搖を招き李朝時代に至り明治四十三年八月廿二日に日韓併合が行はれて日本歴史の一部に加へられ、將又日本國民とさるに至り、現今朝鮮の二千萬人の新日本國民が各地に散在してゐる、續いて水平社同人は既に一千年の歴史を有し其間種族的反感と宗教的感情から遂に傳統的に職業賤視さるに至つた、即ち第一期は發生時代から形成時代に至る永い期に入る、第二期は實に水平社同人の制度の暗黒時代で徳川封建治下に無限な虐待に苦しめられたのであり、そして明治四年に至り果然彼等の壓力で積弊せる傳統一千年の歴史を押し破りて一般「平民」として更生した。然し一端凝結した歴史の傳統は一片の法令に過ぎず、根底より破壊さるゝことは許され難く、徳川時代の階級政策は今尙氷解されず拘束力を發揮されてゐる傾きである

×

×

×

見よ、世界民族の共通的祖國觀念と階級意識、彼の怖るべき朝鮮人の獨立運動、續いて帝都震災の際鮮人は如何に活躍したか、近くは櫻田門の〇〇事件等。遡つて大正十年の春水平社同人が奈良縣下に於ける國粹會と血の雨を降らした抗争問題、國民よこれ等強力なる反抗を靜視し、而して眼光を轉じて右「インド、ユダヤの再建運動を見逃す勿れ」、殊に國際關係尖鋭化する此際若し避くべからざる武力闘争を

惹起し、國內の人心動搖せる際外に背水の陣を張り、内に之等同胞の多數の人反旗を翻へしたら一体三千年の歴史をもつ日本祖國はどうなるか。抑も朝鮮民族について東大教授文學博士金澤庄三郎氏は、去る昭和四年の「日鮮同祖論」と題する名著に於て「日鮮同一民族」であると證明されてゐることを見ても密接なる關係がハッキリ知れる、更に他國の如く「朝鮮は征服でなく併合國である」斯くの如く凡ゆる點から究明しても血族關係に於ても朝鮮人水平社同人は同一であり、且つ日鮮兩國家成立の見地からしても歐洲の如く征服國でなく併合國であるが爲め、元々同一精神を保有し、國民の統一力が把握されてゐなければならぬ素因が供はつてゐるに不拘、多數の國民は徒に因習に囚はれて之等の人々に對し認識を錯覺してゐるのである、眞に我祖國日本を救ふの觀念あらば一刻も早く覺醒して之等を正解し、我々國民が堅く手を握りて多年國內に横倒つてゐる、この強大なる二ツの瘤を氷解し、強力なる我日本同一血族民衆の大結成が急務だ。

(8) 勞資マルキシズムの

理論的効果の失望から最近歐米に於て

生産の分配より「心の協調」に移る

X X X

由來我等人類は殆んど本能的に最少の犠牲を拂つて最大の効果を收めんとする動物である。斯る意味に於て、労働者は勞を少くして賃金を多く獲得せんとし資本家は投下資金を少くして最大の利潤を收めやうとするのは必然的の懇求とすべきである。此の意味の下に必然的に資本家は獨裁主義に推移せんとし労働者も亦反動的闘争主義を奉ずるやうになつた結果各所に労働争議が勃發するに至つたのである。

かくの如く勞資の闘争が頻發するやうでは疲弊困憊せる現在の産業界が益々危地に陥ることは必定であり兩者の必然的滅亡は勿論、ひいては國家の消長に大なる禍を及ぼすものであるから、斯る兩者間の闘争は絶対に防止せなければならぬのである。而してこれに代ふるに温い協調を以てしなければならぬ。現在の産業団体は總てその出发点に於て肝腎の「心の結び」を抜き利害問題を主題とした資本家と多數の労働者によつて造られた団体であるから「何れか又最初の利害關係に戻る」と云ふ天地大自然の

原則に支配されることを忘れてはならない。

この意味に於てこの協調も只形の上に於てのみの協調でなく兩者の心を基本とした美しい人情味ある協調でなければならぬことを考へられる。

X X X

最近英、米、伊、等に於ては勞資關係が「分配の闘争より心の協調へ」といふ道程を辿り、その計畫をたて、その運動を起しつゝあるこゝは彼等は最早闘争は過去の夢であり、時流は協調を教へつゝあることを自覺した結果に外ならぬ。勿論彼等がこゝに到達するまでには色々の原因もあらうが、最も大きい原因の一にはマルキシズム理論の實際的效果についての失望である。

今一つは労働争議に生々しい痛手をうけ、悲惨な姿になつた自分等をハッキリ意識した時、彼等は必然的に同胞相愛の立場からお互ひに相争ふことの不利益なことを知り、互ひに手を執り合つて勵まねばならぬと云ふ觀念が濃厚になつたことである。而してこれを漸進的ながらも實現しつゝあるのは英、米、伊等であつて、英國に於てはアルフレッド・モンド氏の發聲にてこの協調主義を勞資間に承認するところとなつた。また米國は労働争議の發生地であるだけに、この方面の問題にも洗練されてゐる關係上、既に労働者の株式所有制度が設けられてあつて、勞資間の紛争には第三者の容喙を待たずに解決づけら

れるやうになつてゐるので、今日特に協調主義を採用した譯ではないが、斯様な問題が各國に起るやうになつてからは、殊にこの協調的精神が濃厚になつた。次に伊太利は宰相ムツソリーニが生ひ立ちの關係上労働階級の心理状態を能く看取してゐるので、この勞資間全般の融合に關しては最初から多大の注意を拂つてこれに善處して來たが、この勞資間の協調運動が高調するにつれて愈々この協調主義の躍進を觀るに至つた。

(9) 日本帝國の興亡は

我日本民族の大結成あるのみ

X X X

本聯盟は最後の必勝を期す段階に、現下に横たはる階級意識を氷解し、血族關係を持つ我日本民族の結成を期して對内を硬化して而して對外硬化に躍進せんとするのである。由來血族關係が如何に一國の興亡を左右せる魅力があるかを説く

顧れば中世時代は民族の各員間の血族關係といふ上に生活をしてゐた、但しその當時にはこの血族關係は意識されてゐなかつたのである。中世時代の倫理は基督教的倫理であつた。血族哲學は僧侶的禁慾主義の爲めに抑へつけられてゐた。そしてこの僧侶的な禁慾主義は、常に血族否定の意識に働いてゐたからである。何故かと云ふと、中世紀は心の上のみ築かれた世界であつたからである。肉体は障害となるものと思はれ否定された、そして血族の特殊性に注意を向けることは肉の罪惡なりと獨斷的に見られたのである。血族本能に反映するこれらのすべての制度にも係らず、それは今日まで残存してゐる。而して「血族感情の基礎に築かれて」ゐるものである、これについてドイツ血族神祕論者ワルトホイトマン氏の一論端に曰く、それは肉体的魅力によつて同じ民族と文化とを持つ人々を益々緊密に綜合しや

うと希つてゐるのである。それは眞の肉体的結合であるに相違ない、血管筋肉及び鋭敏な神経器管に於ける同一のリズム、それは吾人に熱情的な排他的なるものを與へ、外國人の干涉を遠ざけて生活し得るやうな同胞を基準とした社會的機構を與ふのである。然るにマルクスの主義者の認識には彼等は階級至上主義者と同時に世界主義者といふ。「民族といふ共同生活体は彼等の眼前に映する」ことが甚だ稀薄である。彼等の歴史觀によれば人類の一切の歴史は階級があつて民族がない、全人類は搾取階級と被搾取階級との二大陣營に對立して抗争するといふが基本的公式である。

それはマルクスは祖國を失ひ民族國家の本質的價値を意識せないので、自由主義の黄金時代に生存したところからくる環境的反映でもある。彼等は人類の共同生活体が現段階に於て世界的規模にまで發展してゐると考へるところにマルクス主義の誤謬が発見さるのである。

X
X
X

即ち現段階に於て人類の共同生活体は、民衆の規模に於て完成し、世界的規模に於て未完成である、然るに民族生活こそは歴史的傳統の上に立つ共同生活体の基礎的機構である。民族を離れたるインターナショナルリズムは虚空で雲を掴む如き空漠たる幻影である。「萬國のプロレタリアート團結せよ」「いふスローガンを押し立て、不斷強烈なる力闘を續けてゐるが、今日まで一体どれだけの實績を挙げたか

と問ふと實に自己を中心に認識したイズムは遂に第二第三インターナショナルが萬國の労働者團結に踊らず、遂に豫想は裏切られて未だに總て不完全であり未完成である。

抑も人類生活の動向は必然的第一義的に於ては民族的であり、第二義的に於ては世界的發展の途上に到達せなければならぬ。現に印度に於けるスワラヂのムーブメントは印度の民族意識に根ざした印度的のものである。さればこそ澎湃として印度全民衆の魂を揺し動かすのだ。スワラヂの宗教的宣誓と非軍事不服主義も印度の國土に成育した印度人のイデオロギーであるを表現してゐる。又支那に於ける故孫文の三民主義は何が支那民衆の心を捉へたか、それは三民主義が支那の國土に生れ、支那の民族意識に深く根ざしたイデオロギーだ。續いて理論的体系を有するマルキシズムも前述の如く事實の前に屈服しなければならぬ。最早や破産の實證を示してゐるマルキシズムはレーニンズムとなり、レーニンズムは社會主義建設の理論となつた。サヴェートロシアの建設を理論づけたスターリンは一國の社會主義は可能だといふ、しかしそれは可能性でなく必然性だ。スターリン派が如何に強辯しやうと、「トロツキイの批判した」如く一國社會主義の建設に社會主義を民族的限界へ移行せしむるものだ斯の如く赤色勞農ロシアでも社會主義を民族的に實現せんとしつゝある。それは祖國を愛し母國を擁護せんとする國家觀念である。

最近獨逸に於て國民大衆の壓倒的支援を得る獨逸國粹社會黨を完成し、獨逸のファシズム國家を建設せんとする獨逸國粹社會黨首領アドルフ・ヒットラーは血族時代を説き、血族感情を同一する獨逸民族の大結成を期し廢頽せる獨逸祖國を救はんと斯く火を吐く如く熱叫した。聽け「吾人の主張は國民の心血を毒しつゝある微菌を撲滅するに非ずんば實現し難い、我國民を邪道に陥れたるユダヤ人に對しては假借なく攻撃する必要がある。これ即ち精神的、肉体的生産者の遊民食客に對する戰闘だ、我獨逸國粹社會黨の見地よりすれば相反するプロレタリアもブルジョアも無い、たゞ僚友たる生産的ドイツ國民あるのみだ」と絶叫した。加ふるに日本民族はこの歴史的發展の過程を踏み、我民族的共同体は綜合家族であり、天皇は綜合家族の家長である。この國家觀念は建國以來久しきに亘る民族生活を通じて一貫して繼承されたる確固たる民族精神の基礎である。一君民の大家族主義こそは我等の祖先以來の傳統を持つ民族的有力なるイデオロギーであつて、この確固たる民族精神が抑も今日日本民族の進化發展を來し大日本帝國の國礎を強大にしたことに基因されてゐるのだ。

斯くの如く血族感情と民族結合の強弱、統制の如何は抑も一國の興亡にまで及ぼし、之等の意識が國粹主義、社會主義と分類し、且つ其要素を搖がすのである、故に本聯盟は積弊せる階級意識を氷解して血族國家の國礎を更に強化し對外硬化の段階に對内硬化を期すのだ。

(10)

強力なる全大衆の壓力を浴せ

亡國的政争を排撃し祖國日本を

防衛する本聯盟旗を押立てよ

X

X

X

果然我帝國は自衛手段の爲め支那を叩き潰した、そして、不斷ロシアを祖國と呼ぶ極左翼派に多大の衝動を與へ、忽ちにして國論は統一に歸し、彼等を支持して居た盲目的大衆は續々として總退却を開始した、斯くして我帝國の威嚴をハッキリと意識したのか不斷離合集散を繰り返して居た「赤色無産政黨の牙城は強烈なる動搖を來たし將に崩壊を辿り」つゝある際彼等は再び僅かの大衆の行くべき方向の國家社會主義と轉換し、以來今や至る所でマルキシズムからファシズムへと夥しく變移せんとし、茲にファシズム團體がメキ／＼と擡頭して來たのだ、斯様にして日支事變によつて思想界は稍々清算された、併しながら我日本民族は他國人に斷じて想像され難く血族結成による統一的精神作用が腦底を支配し若し國家に危機が胚んだ時不斷の抗争は何處へか消散して最初の統一的意識に蘇り「國難に善處するだけの要素と歴史が有力に」證左してゐるのだ、茲に本聯盟は我國民の最後の國家的觀念の統一的意識を看

破したのである、だが併し、在來各地に散在せし國家主義者の如く徒に因襲を守り盲目的國家觀念をもつ本聯盟ではなく、飽く迄も最後の實收と必勝を期す「科學的論據と決行的實力」を含有し「理論と實際を綜合」して「君主の安泰と國民の幸福」の獲得に常に我々の皮膚の下を脈々横溢に合流せる大日本民族の血族的大結成に躍進又躍進を続けつゝあるのである、而して我々の絶体的大衆の壓力をもつて我帝國の國礎の支持に磨きをかけ、輝く新日本の建設に力闘し、そして全アジア民族に呼びかけんとするのである。

X X X

本聯盟の唯一の使命や眞髓たるは我國體を毀損し天皇の大權を冒瀆し國民を蠱毒する如き行爲を違ふする既成ブルジョア政黨、直譯的赤色無產政黨、或は蠻力的ファシスト政黨等の如く、手段を選ばず、政權獲得を唯一の目的とせる集團は全然其本質や目的を異にし、本聯盟は今後辛じて絶体多數の大衆の支授をうけ多大なる同志を把握しても徒に動搖の強い、短命なる政權獲得慾の野望を抱き、全大衆の期待や口約を裏切るか如きことなく「永久に政權獲得に匹敵すべく隠然たる絶對的潛勢力」を壓して、時の政府を鋭く監視し、縦横に操縦し直接間接に本聯盟の主義貫徹に力闘すべく世界無比の犠牲的集團である、斯の如き優越せる使命たるは他の何れの何黨にも追隨を許さず、更に本聯盟は他の政黨の如く

大衆を踏臺に黨利、黨略、私利、私慾の爲めの政權獲得慾がないがため、必然的無謀なる軍資金の必要を認めずそれがため搾取資本家と野合を結んだり、同志の堅い誓約を裏切つたり、人道を蹂躪するが如き陋劣なる賣取的の肉彈戦は全然不要だ、故に眼中國家なく大衆を欺瞞し利害と感情に亂闘を續くる勞資、赤白の頑強なる抗爭を排撃し確固として國內の統制と國民精神の統一に常に「犠牲的戰備を確守して」飽く迄も全大衆同胞の最前線に立ち、合流せる我全大衆の壓倒的威力をもつて光輝ある三千年の歴史を愛護し、益々國礎を強化して、萬世一系の天皇尊崇の下に先進的國粹主義を宣揚して動向せる内外の時局に鋭意注視し、彼我の長短を相戒めて完絶せる指導者の位地を把握すべき集團である。

今や東亞の空を搖がしたイタリーのファシズム、ドイツの國粹社會黨の主張の如きと聊か其趣きを異にし世界人類永遠の必勝を期す我精神王國の發露である、「弱きを援け強きを挫き」搾取資本階級を抑壓して無產勞働階級の慘狀を救ひ國內の統一を期し、若し「國家に危機が胚んだ時精靈を積み祖國防衛」に當る日本独自の武士道的日本魂の溶解せる分身である、根強き胸底の雄叫びに我等の母國日本を守る強力なる犠牲的本聯盟である、而して絶体的全大衆の壓力で日本民族の大結成を期し、續いて極東アジア民族に覺醒の警鐘を亂打して積極的に歐米に進出して多年閉じられて居る我等有色人の解放の扉を押し破らんとする「急進的社會改良主義」の旗下に押しかけて日本民族の大結成を期せ。

—— 大衆國威聯盟總指令局長 箕浦春浪 著 ——

◆「米國潰滅」の好機来た?◆

判 六 四 裁 体
錢 五 拾 參 金 價 定

東京市麴町區元平河町一〇
振替東京九六七〇番
大衆國威聯盟出版部
電話九段一八一九番

日支事變を機に、國際聯盟の影に、秘密外交に惡辣暴慢を極むるヤンキー米國!、今やドルの威力を以て世界を席卷せんとし、盛んに日本に挑み來る、やがて展開せられるべき日米戰爭、物質と精神の爭覇戰は遂ひに避くるなし、ドルと魂と、その何れに幸ひあるべき? 腐れる黄金を抱いて地獄の深淵に落ちつゝある哀れなるヤンキーの姿よ! 痛快極りなき本書、一讀勇躍せざるものなし

体 裁 〓 四 六 判
定 價 〓 金 參 拾 五 錢 (送料四錢)

東京市麴町區元平河町一〇 電話一八一九番
大衆國威聯盟出版部
振替東京九六七〇番

昭和七年五月一日刷印
昭和七年五月三日發行
昭和七年五月五日第二版
昭和七年五月七日第三版
昭和七年五月十日第四版

發行所

東京市麴町區元平河町一〇
大衆國威聯盟總指令局出版部
振替東京九六七〇番

「再び起ち全大衆に呼びかく」

定價金拾五錢(郵送無料)

著 者 箕 浦 春 浪

東京市麴町區元平河町一〇

不 許
複 製

發 行 兼 印 刷 人 中 尾 三 郎

印 刷 所 大衆國威聯盟關西地方局出版部
大阪府北區太融寺町一二一

大衆よ何處へ行く

萬邦無比の國体を有する日本國家は無窮繁榮の運命を荷つて生れ出でた筈だ。然るに現狀はどうだ？興亡の岐路に立てる民衆に導きの鐘を打つものは誰ぞ！日本國家の眞の姿を赤裸に説いて破壊か建設かの最後のキイを與へるもの、即ち本書である

無窮永劫の國運を負ひ、八州に渡る國威に恵れたる皇國日本を外にして、榮光輝く世界制覇の彼岸に到達し得るものは斷じてなし、されば培ひ、育み、而して伸びよ

体裁 四六判ブツクカバー付二百頁

定價 大衆的廉價判 金 八拾錢

(送料四錢)

東京市麴町區元平河町一〇 電話九段一八一九番

大衆國威聯盟總指令局出版部

振替東京九六七〇番

夕刊大衆日日新聞

(本紙代郵稅共一ヶ月六拾錢)

世に新聞は多い、然も眞に讀むべき新聞の如何に少きぞ、本紙はニュースザファースト弊を去り、營利の外國家國民なき既成新聞に非らず、大衆の導きとなり慰めとなり、而して唯一の友たることをモットーとする、即ち善き意味に於ける言論界の尖端を行くものとの自負を以て江湖大衆に推して憚らず、苟も思想、經濟、政治、社會の萬般を語らんとするものは、先づ本紙を讀め！

東京市麴町區元平河町一〇 電話九段一八一九番

夕刊大衆日日新聞社

大阪市北區太融寺町一二一 電話北二五五二番

大衆國威

(一部定價金拾五錢送料金五厘)

極左分子の潜行的盲動、白色テロの横行、思想界は混沌として止まる所がない、古ひ言ひ草だが、健全なる社會は健全なる思想の上のみ打ち建てられる、現在の日本思想界は是が非でも清算されねばならない、こゝに本誌の使命がある、右せず、左せず、而して無意味なる舊套固守を排して、常に新しく、常に明かに、大衆指導に任ずるもの、思想界清算へのスタートは遂ひに切られた、而してそこに「明日の日本」が打ち建てられる。

東京市麴町區元平河町一〇 振替東京九六七〇番

大衆國威聯盟機關部

電話九段一八一九番

「大衆國威聯盟」入會申込書

今回小生儀「貴聯盟」ノ主義綱領ノ精神ニ賛同共鳴仕リ大衆國威聯盟員トシテ入會仕度、尤モ入會サレタル曉ハ飽ク迄モ御會ノ主義綱領ノ精神ヲ遵スルハ勿論貴聯盟ノ體面ヲ汚サザランコトヲ誓約仕度

原籍

現住所

昭和 年 月 日 氏名

年 月 日生

印

大衆國威聯盟總指令局御中

略	歴			
	現在ノ職業			
	趣			
	味			
主	義			
	宗			
教	宗			
	教			
紹介者				
地別	會費	自至	年 月 日	取扱者印

